

東教育財団だより

発行所
公益財団法人
東教育財団
大阪市中央区南本町
2-2-11 堺筋本町
西尾ビル6階
電話06(6262)7363
発行責任者 長谷雄雄

賀春

本年もよろしく
お願い申し上げます



平成三〇年度の

助成事業を

募集します

東教育財団では、中央区内の学校教育及び社会教育の育成、並びに、地域文化の振興に寄与するため、学校教育活動、社会教育・生涯学習活動、並びに、地域文化・まちづくり活動に助成を行っています。

平成三〇年度の助成事業は、

三月一日(木)から募集を開始し、

三月十六日(金)に締め切ります。

ご応募をお待ちしています。

助成対象事業

① 学校教育事業助成

中央区内の学校教育の充実・発展に寄与し、且つ、当該校園の独自性や特色を持つ事業

〈参考事例〉

- ◇ 地域の歴史、伝統、文化、産業等に関する調査・学習事業
- ◇ 右記の調査・学習によって作成した冊子等の発行事業
- ◇ 外国人子女への日本語等指導事業
- ◇ 姉妹校交流(他文化交流・共生事業)

- ◇ 伝統芸能(文楽、能等)鑑賞、学習、発表事業

- ◇ 校内緑化等自然環境整備事業

- ◇ クラブ活動に必要な用具・資材の購入・貸与事業

- ◇ クラブ活動の地域交流事業(例：吹奏楽部が開催する地域コンサート)

- ◇ クラブ活動等における全国大会等への参加事業

- ◇ 学校周年記念事業(一〇周年を単位とする周年事業に限る)



「学校教育事業助成説明会」風景

② 社会教育・生涯学習事業助成

中央区内の社会教育や生涯学習の充実・発展に寄与する事業

③ 地域文化・まちづくり事業助成

中央区内の地域文化や東地区五地域のまちづくりの振興に寄与する事業

助成対象団体

① 学校教育事業助成

中央区内に所在する公立の幼稚園、小学校及び中学校

② 社会教育・生涯学習事業助成

社会教育・生涯学習の活動を行う社会教育団体及び生涯学習団体



「社会教育・生涯学習事業助成説明会」風景

③ 地域文化・まちづくり事業助成
 地域文化・まちづくり活動を行う
 団体



「地域文化・まちづくり事業助成説明会」風景

助成限度額

超低金利政策の影響を受けて、平成二九年度の運用収益が平成二八年度比で約六四〇万円の減となったので、平成二九年度助成額は、平成二八年度助成額から概ね三割を減じた額とした。

平成三〇年度の運用収益も、平成二九年度比でさらに三二〇万円の減となるので、その減額相当額を特定の助成事業の助成額で調整することとする。

平成二九年度の
 助成事業を
 紹介します

平成二九年度に助成した事業で既に実施報告書の提出のあったものを一部紹介します。

◆ 地域文化事業助成
 「子供獅子教室」



夏祭り参加風景

いくたま子供獅子保存会が開設する「子供獅子教室」に地域の子

供たちが自主的に参加して獅子舞を学び、地域の夏祭り（七月一日・二日）の巡行にも参加して獅子舞を披露した。
 このことにより、地域の文化財「獅子舞」の伝承・保存ができるとともに、世代・地域の文化交流が図られた。

（助成額二二万円）

◆ 地域文化事業助成
 船場まつり「講演と講談の会」

設立二周年を迎えた淀屋研究会では、一〇月七日船場まつりの一環として「講演と講談の会」を綿業会館で開催した。

第一部の講談では、浪速の侠客「木津の勘助」が語られ（下段Ⅱ写真①）、第二部では、宮本又郎名誉教授が淀屋から五代友厚までの「大阪を作った豪商・企業家」を講演され（下段Ⅱ写真②）、なにわ商人の心意気と誇り、そして、船場の良さを再認識した。

（助成額一五万円）



宮本又郎氏による講演風景（写真②）

講談師：旭堂南青氏（写真①）

◆ 地域文化事業助成
 HANDSちゅうおう
 「バリアフリー上映会」

六月二四日ヴィアール大阪において、年齢や障害の有無を問わずすべての人が楽しめるバリアフリー映画の上映会を開催し、映画「あん」（監督・河瀬直美）等を上映するとともに、河瀬氏からカン又映画祭の話やバリアフリー映画

に対する思いを音声解説付きでお聞きした。これらの体験がソーシヤルインクルージョンの推進につながった。



河瀬監督(右)のトークショー風景

(助成額二二万円)

◆ 地域文化事業助成

「子ども科学出前教室」

大阪市シルバーアドバイザー連絡協議会では、玉造小と中大江小の低

学年を対象に出前教室「子ども科学教室」を開催し、ドライアイスの基礎的な科学を教えることで、科学に対する興味を高め、科学好きの人材の養成を図った。



ドライアイスの実験風景 中大江小学校 (写真=左) 玉造小学校 (写真=右)

(助成額八万円)

◆ 地域まちづくり事業助成

「中大江校下盆踊り大会」

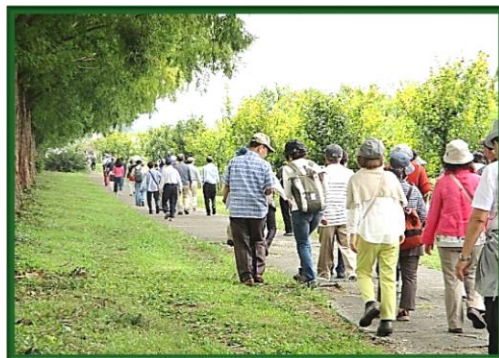
北大江・中大江地域では、毎年八月の二日間で中大江公園で盆踊り大会を開催してきたが、第五二回を数える今年の大会は、台風の影響で順延となり、八月一〇日だけの開催となった。だが、二千名を超える賑わいとなり、世代間の交流が深まり、地域住民の交流と融和が図られ、地域コミュニティが活性化された。



(助成額一五万円)

◆ 地域まちづくり事業助成

「玉造いきいき交流事業」



八月、玉造地域住民を対象に参加者を募り、九月三日(祝)総勢九八名で、滋賀県高島市マキノ高原への「健康ハイキング」を実施した。

これにより、地域住民の健康増進と世代間の交流が深められ、地域コミュニティづくりの一助となった。

(助成金二〇万円)

おおさかべんおもしろこ 大阪弁面白考 ―大阪弁自慢―

大阪は、昔から全国から人や物が集まり、商売してきた歴史がある。大阪ではことばをうまく使い、理解してもらい、サービスマンもしいと生きていけないという意識が常にあったと思う。

雑誌『上方芸能』の編集に携わる広瀬依子氏は「商人のまち・大阪で重要なのはコミュニケーション。会話しないことには仕事が進まない。駆け引き、裏に隠された意味、様々な言葉の遊びが、そこから発達した」という。

作家の富岡多恵子氏は、その著『難波ともあれことよし葦』（筑摩書房）に次のように書く。

「おそらくそのひとつは、大阪語を一地方語と思っていないこと

さらに、大阪語は大変優秀な言葉だと思っていること

（だから）一種の『正調大阪語』に固執するところがあり、他国人

の大阪語（のつもり）にわずかも正調がはずれているのを感じると背中が痒くなり、神経がチガウと声をあげる」。

方言研究の権威・徳川宗賢氏は『関西方言の社会言語学』（真田信治氏との共著・世界思想社）の中で、マスメディアが発達し、情報網や交通網がはりめぐらされ、人が激しく流動することによって、標準化が進み、伝統的な方言は壊滅的状态にあると述べた後に次のように続ける。

「しかし、ここ関西に限っていえば、伝統的な方言がそのまま残ることはないにしても、この地域が標準語一色に塗つぶされてしまいい、関西弁が地を払ってしまっなどとは、夢にも考えていない人が圧倒的に多いのである」。

大阪は、その傾向が最も強く、大阪弁が将来なくなってしまうなどと考える人はいない。むしろ今でも新語が生まれ、全国に広まる語句もあり、勢いが増しているというのがその特色である。

話が変わるが、慶応四（一八六八）年一月、大久保利通は大坂遷都を唱える建白書を明治新政府に

提出した。その目的は、「朝廷の旧弊御一新、外国御所置（大坂にある外国公使館との交渉に便利）」であった。しかし、因習に囚われた公家らの力が未だ強大で実現に至らなかった。

この大久保の「大坂遷都論」が実現していれば、大阪弁が標準語になっていたとよくいわれる。



慶応四(1868)年 明治天皇が大坂行幸の際に宿泊された難宗寺【守口市】

それより古く、慶長五（一六〇〇）年の関ヶ原台戦で、西軍が徳川軍を破っていたら、政治の中心は江戸に移らず、大坂と京都の上方が中心であり続け、関西弁が標準語になっていたに違いない。

それだけではない。大坂＝京都政権は、海外との交易は儲かるからと、江戸幕府のように鎖国政策を

とらず、海外への雄飛を続け、植民地の獲得に覇を競い、大英帝国と干戈を交えることになっていたかもしれない。

そして、その戦いにも勝利を得ていたら、一八世紀の大坂（大阪）は世界の銀行となり、世界中で日本語、いや関西弁（大阪弁）が大手をふって罷り通っていたはずであり、筆者の六十過ぎての英会話学習の苦勞もなかったのである。石田三成めに人望がなかったために、儂く潰えた夢である。

大阪弁が標準語にならなかったが、大阪が首都にならずによかったこともある。もし大阪が首都になっていれば、大阪城を皇居とせざるを得ず、筆者の二〇年近くに及ぶ大阪城公園の早朝散歩は大きな制約を受けていたはずである。

（槇野 勝・記）

※このコラム欄への投稿を募ります。

テーマは「おおさか」です。

一五〇〇字程度でお願いいたします。